

# 福島で放射線モニタリング 国際ワークショップ

## 除染現場視察で専門的知見深める

「放射線モニタリングに係る国際ワークショップ」(組織委員長 山本幸佳・大阪大学名誉教授)が一日から三日の日程で茨城県大洗町と福島市で開催され、十九か国から約百四十名が参加し、放射線モニタリングをめぐる最新の研究成果等の発表が行われた。ワークショップにあわせて、参加者らは福島第一原子力発電所事故後の除染作業現場を訪れ、環境回復への取り組みの様子を通して専門的知見を深めた。同ワークショップは、二〇〇五年に個人被ばく



線量測定をテーマとした東アジア四か国のワークショップとしてスター。三回目からは、欧米からの参加も得てテーマを放射線計測全般として実施されている。八回目の今回は、原子力発電所事故を受け、初めて福島でのプログラムを組み入れた。開催にあたっては、千代田テクノルが全面的に協力している。

三日には、福島市での同ワークショップ・サテライトミーティング(写真上)開催に先立ち、海外参加者を中心に、竹中工務店等のジョイントベンチャーで進められている南相馬市の除染作業現場を訪れた(写真下)。民家での高圧水洗浄による除染作業を視察、作業現場で放射線量を測定するなど、事故後の福島での環境回復の現状を正しく理解する機会となった。サテライトミーティングでは、環境回復技術の課題や効果的な除染、放射線の専門家立場から福島復興のため

に貢献できることは何か、といったテーマでの発表と議論を実施。松原純子・元原子力安全委員長代理が専門的見地から規制値と実際に有害なレベルの放射線量の不整合について講演したほか、鈴木敏和・放射線医学総合研究所内部被ばく評価室長が福島事故による放射能汚染と放射線量について講演した。

続いて、町末男・アジア原子力協力フォーラム(FNCA)日本コーディネーターをモデレータに行われたパネル討論では、社会と専門家との関わりといった観点から、放射線しきい値の意

味を正しく伝える必要性や公衆とのリスクコミュニケーションの重要性を強調する意見などが交わされた。

二腕口ロボットを開発  
三菱重工 福島現場でも期待  
三菱重工は六日、人々の腕を模した二本のアームを持つ遠隔作業ロボット「MHIMERESTER」(Maintenance Equipment Integrated System of Telecontrol Robot)を開発したと発表した。人の立ち入れない災

### 蜂須賀大熊町商工会長に聞く

国会事故調査委員会が委員を務めた蜂須賀大熊町商工会長に、福島県会津若松市内にある大熊町民用の仮設住宅内で、事故から一年八か月たった今の胸の内を聞いた。(中村真紀子記者)



国会事故調査委員会のメンバーが初めて集めら

れた二〇一一年十二月、黒川委員長が何を最初にしたらいいかと私に聞いてきたので、まずは現場を見てほしいと言った。

「じゃバス止めて。先生たちで倒れてる優秀な先生たちに私たちが苦しい気持ちの何がわかるのだから」という気持ちもあつた。すると間髪を入れず、「よし、行く」と言われた。この人は役に立たなかつたオ

うと思った瞬間だった。それから十日も経たないうちに現場に入った。福島第一原子力発電所から大熊町役場へ向かう時、我が家は道路のそばなので筆筒が倒れていたのを見える。田中光彦委員が「あれ、蜂須賀さん筆筒が倒れているじゃないか」と言うので「じゃバス止めて。先生

たちで倒れてる優秀な先生たちに私たちが苦しい気持ちの何がわかるのだから」という気持ちもあつた。すると間髪を入れず、「よし、行く」と言われた。この人は役に立たなかつたオ

うと思った瞬間だった。それから十日も経たないうちに現場に入った。福島第一原子力発電所から大熊町役場へ向かう時、我が家は道路のそばなので筆筒が倒れていたのを見える。田中光彦委員が「あれ、蜂須賀さん筆筒が倒れているじゃないか」と言うので「じゃバス止めて。先生

たちで倒れてる優秀な先生たちに私たちが苦しい気持ちの何がわかるのだから」という気持ちもあつた。すると間髪を入れず、「よし、行く」と言われた。この人は役に立たなかつたオ

うと思った瞬間だった。それから十日も経たないうちに現場に入った。福島第一原子力発電所から大熊町役場へ向かう時、我が家は道路のそばなので筆筒が倒れていたのを見える。田中光彦委員が「あれ、蜂須賀さん筆筒が倒れているじゃないか」と言うので「じゃバス止めて。先生

たちで倒れてる優秀な先生たちに私たちが苦しい気持ちの何がわかるのだから」という気持ちもあつた。すると間髪を入れず、「よし、行く」と言われた。この人は役に立たなかつたオ

うと思った瞬間だった。それから十日も経たないうちに現場に入った。福島第一原子力発電所から大熊町役場へ向かう時、我が家は道路のそばなので筆筒が倒れていたのを見える。田中光彦委員が「あれ、蜂須賀さん筆筒が倒れているじゃないか」と言うので「じゃバス止めて。先生

### 被災して感じる二つの思い

原発と共に生き、生活して

立ち上がったかについて櫻井正史委員と議論したが、最初自分では納得がいかなかった。もしも政府が冗談も通じない。委員たちに「私たちは目の前に自分の家があつても入ることできない。これが現実なのでよく見て感じていって」と伝えた。結局波の被害が大きかつた地

区住民をもつと助けられたい。これは被災者なら当然の視点。自分が地元に戻った時にみんなに説明できる急時迅速放射能影響予測書であることが残念。緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SEEED)が役

立ち上がったかについて櫻井正史委員と議論したが、最初自分では納得がいかなかった。もしも政府が冗談も通じない。委員たちに「私たちは目の前に自分の家があつても入ることできない。これが現実なのでよく見て感じていって」と伝えた。結局波の被害が大きかつた地

区住民をもつと助けられたい。これは被災者なら当然の視点。自分が地元に戻った時にみんなに説明できる急時迅速放射能影響予測書であることが残念。緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SEEED)が役

立ち上がったかについて櫻井正史委員と議論したが、最初自分では納得がいかなかった。もしも政府が冗談も通じない。委員たちに「私たちは目の前に自分の家があつても入ることできない。これが現実なのでよく見て感じていって」と伝えた。結局波の被害が大きかつた地

区住民をもつと助けられたい。これは被災者なら当然の視点。自分が地元に戻った時にみんなに説明できる急時迅速放射能影響予測書であることが残念。緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SEEED)が役



二腕口ロボットを開発  
三菱重工 福島現場でも期待  
三菱重工は六日、人々の腕を模した二本のアームを持つ遠隔作業ロボット「MHIMERESTER」(Maintenance Equipment Integrated System of Telecontrol Robot)を開発したと発表した。人の立ち入れない災

北海道職員技師(原子工学)募集  
北海道庁は、技師(原子工学)一名を募集している。

初任地は、北海道原子力環境センター(予定)で、北海道電力泊発電所の周辺地域における空間放射線の監視及び環境試

料中の放射線の測定が主な業務。昭和五十二年四月二日以降生まれで、大学で原子力(放射線及び放射性物質、原子力施設等)に係る工学に関する学科を卒業または平成二十五年三月卒業見込みの日本国籍保持者が対象。採用は平成二十五年四月一日以降。

一次試験(札幌市または東京都)は平成二十五年一月二十七日、二次試験(札幌市)は平成二十五年二月七日。応募は平成二十五年一月七日必着。問い合わせは北海道総務部総務課総括グループ(電話〇一一二〇四一五〇一七)まで。